

委託事業実施内容報告書

平成22年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【ボランティアを対象とした実践的研修】

受託団体名 兵庫日本語ボランティアネットワーク

1 事業の趣旨・目的

1. 業務題目

兵庫県には約 10 万 2000 人の外国人が居住している。そのうちの 4 割が新渡来者であり、日本で生活するために彼らの多くが、居住地域、勤務地域で日本語学習を望んでいる。その要望に応えるために、県内には約 80 箇所の日本語教室がある。どの教室も恒常的な学習支援者不足である。

兵庫日本語ボランティアネットワークは県下の行政機関（国際関係課、教育委員会）国際交流協会、ひょうご日本語ネットと密接な連携関係を持っているので、人的ネットワークを生かすことができる。また、兵庫日本語ボランティアネットワークは日本語学習者のニーズに応えるための日本語学習支援者養成講座を開催してきた実績がある。

現在、兵庫日本語ボランティアネットワークでは地域、企業との連携による日本語支援システムを構築するために行政との協働事業計画を進めている。本事業では、次を目的に行う。

2. 業務の目的

(1)地域および協働事業のモデル日本語教室で中核をになう支援者を育てる

(2)学習者ニーズに応えるための支援活動を担う人材を育てる

2 運営委員会の開催について

【概要】開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
5 月 20 日	公益法人 兵庫県国際 交流協会会 議室	岸本雅男 松田高明 山田耕治 姉川洋一 水野マリ子 青木直子 酒井滋子 石井真未枝	本講座の開催目的、意義、対象、講座内容の検討	① 兵庫日本語ボランティアネットワークの主旨案についての討議 ② 講座内容についての討議

		奥田純子 清田薫 野村登美子 田中香織 長嶋昭親 湯口恵		
6月24日	公益法人 兵庫県国際 交流協会会 議室	岸本雅男 松田高明 山田耕治 姉川洋一 水野マリ子 青木直子 酒井滋子 石井真未枝 奥田純子 清田薫 野村登美子 田中香織 長嶋昭親 湯口恵	本講座受講生募集要項 の検討	① 講座内容・講師の 最終決定 ② 募集要項案につい て検討
7月29日	公益法人 兵庫県国際 交流協会会 議室	岸本雅男 松田高明 山田耕治 姉川洋一 水野マリ子 青木直子 酒井滋子 石井真未枝 奥田純子 清田薫 野村登美子 田中香織 長嶋昭親 湯口恵	本講座広報について	① 本講座受講生募集 案の最終決定 ② 同広報について
10月28 日	公益法人 兵庫県国際	岸本雅男 松田高明	本講座修了報告	① 本講座受講生につ いて

	交流協会会議室	山田耕治 姉川洋一 水野マリ子 青木直子 酒井滋子 石井真未枝 奥田純子 清田薫 野村登美子 田中香織 長嶋昭親 湯口恵		② 本講座の最終アンケート結果について ③ 今後の課題について
--	---------	---	--	------------------------------------

【写真】



第4回運営委員会(10月28日)



講座風景(最終回:発表 10月23日)

3 研修講座の内容について

(1) 研修講座名:平成22年度文化庁「生活者都市の外国人への日本語教育事業～日本語学習支援者ブラッシュアップ講座～」

(2) 研修の目標

ここ近年生活者としての「外国」人への地域日本語学習支援活動は県内各地で行われるようになった。しかし、学習者のニーズは多様になり、私たち学習支援者はそのニーズにどう応えていくべきか、また支援内容や方法はどうすればよいのか日々、苦闘しているのが現状である。この講座では、受講者がそうした悩みをお互い出し合い、学習者とのかわり方やニーズに応える方法を講師と共に考え、明日への日本語学習支援活動につなげていくことを目指す。

(3) 受講者の総数 34人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)

(4) 開催時間数(回数)4時間 (10回)

(5) 参加対象者の要件:地域日本学習支援活動の経験があり、本講座を修了後も、地域日本学習支援活動に関わることを希望するもの

(6) 受講者の募集方法

- ① 兵庫日本語ボランティアネットワーク会員(個人100人・グループ30団体)へダイレクトメールで募集
- ② 兵庫県内の地域日本語教室(本ネットワーク非加入団体50団体)へのダイレクトメールで募集
- ③ 神戸新聞で案内記事を書いてもらう

(7) 研修会場

ア 講義

- ① カトリック神戸中央教会
- ② 神戸市教育会館
- ③ 神戸市立新長田勤労市民センター

イ 実習

主に上記の①③の講義時間後半部でワークショップ形式で行った

(8) 使用した教材・リソース

(9) 講座内容

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
8月21日 13:00～17:00	・ オリエンテーション ・ 私はこんな支援者になりたい それぞれの報告者が日本語学習支援体験を話した(例)当初、「教え込み型(文型積み上げ方中心)で支援したものが、学習者のニーズがなにか、学習者が日本語学習を自主的にする方法に変わっていた…etc.。これらの発表を参考	・ 吉岡則子 港島日本語教室「こんにちは」代表 ・ 櫻井久子 KICC 日本語学習指導員 ・ 鈴木一美 東灘日本語教室日本語支援者 ・ 永安龍三郎 日本語学校講師 ・ 宇野祐子 神戸外国人支援センター(KFC) 日本語支援者	28名

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
	に受講生の経験、これからの目標を出し合った。		
8月28日 13:00～17:00	異文化コミュニケーション	奥田純子 コミュニケーション学院院長	24名
9月4日 13:00～17:00	学習を理解する力をつける	・高橋博子 神戸外国人支援センター（KFC）日本語指導員 ・小西タイソア 神戸大学留学生 ・福山翔 NGO ベトナム in こうべ 相談員	29名
9月11日 13:00～17:00	課題達成能力とは何か	青木直子 大阪大学大学院 文学部教授	28名
9月18日 13:00～17:00	言語学習のメカニズム	小林由子 北海道大学准教授	28名
9月25日 13:00～17:00	ボランティアの話し方	小林浩明 北九州大学准教授	26名
10月2日 13:00～17:00	活動型日本語クラスの実践	春原憲一郎 AOTS 研修所長	25名
10月9日 13:00～17:00	学習相談にのる力をつける	吉田晃高 近大姫路大学講師	23名
10月16日 13:00～17:00	教科書を検討しこわす力をつける 文型積み上げ型、場面型、機能型、トピック型などの教科書を分析し、学習者	尾形文 港島日本語教室「こんにちは」コーディネーター	27名

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
	が自分のニーズに応えられるように、支援者の側が、取捨選択したり組み替えたりして、学習者に提供するために受講生がそれを行い発表した。		
10 月 23 日 13:00～17:00	教材を作る 修了式	青木直子 大阪大学大学院 文学部教授	25名

(10) 講座の評価

【1】受講生に対するアンケート

「日本語支援者ブラッシュアップ講座」

アンケート

講座申込者:35 名

講座修了者:26 名 7/10 回以上出席者)

最終日出席者:24 名(1 名早退)

1. この講座をどこで知りましたか。

- a..兵庫日本語ボランティアネットワークの案内で:5
- b.地域の日本語教室で:7
- c 知人から:1
- d. 神戸新聞で:1
- e. 朝日新聞で:6
- f. その他

無回答:3

2. 講座について

(1) 内容について

- a. よかった:13
- b. まあまあよかった:8
- c. ふつう:2
- d. あまりよくなかった:0
- e. 全然よくなかった:0

理由、意見

- ・ 日本語教育・支援のボランティア、サポーターのためには、各分野別の支援方法をベテランの講師の方々より参加型の研修を受講できた。ブラッシュアップのためには非常に有効であった。
- ・ 一般的なボランティア養成講座にはない様々なテーマで学べた。
- ・ 色々のテーマについて講師だけではなく、参加者の方々の色々な意見、知識を吸収できて勉強になりました。
- ・ いい先生の話が聞けた。
- ・ ほとんど新しく知ることばかりだったので勉強になりました。
- ・ 内容の範囲が広がった。
- ・ 発見はあまりなかったが”ボランティア”というものについての理解が深まった。
- ・ 具体的なものとして少しずつ自分の中でイメージできるようになった。

- ・ まあまあよかったが、全体的には理論的な内容が多く、もう少し具体的な内容がほしい。
- ・ 色々と新しい事を教えていただいた。
- ・ 充実した内容だった。
- ・ 色々な切り口からアプローチできる手法、思考法を学ぶことが出来た。
- ・ 理論的なことが多くもう少し実践的のほうがよかった。
- ・ 日本語教育なのに「かんこくのことば」で指導しているのはどうでしょうか。
- ・ 日本の義務教育で指導しているように段階的な指導がたいせつです。
- ・ 国が教科書を作り時間も多く責任をもって指導しなければいけないです。
- ・ 全講座参考になった。

(2) 期間(4 時間×10 回)について

- a. 短かった:1
- b. ちょうどよかった:11
- c.. ふつう:7
- d. 長すぎる:4

理由、意見:

- ・ 多少回数が多いと感じたが、終わってみれば非常に良かった。時間的には3時間/回程度が集中力が切れないのではないのでしょうか。
- ・ 同じ 40h/回なら 4hr/回がよい。
- ・ 10 回という期間はいいと思いますが、4 時間という時間は少し長かったです。始まり1:00が少し苦しかった。
- ・ 充実した講座だったのであっという間に終わった。
- ・ 一日 4 時間というのは長すぎる。集中力が途切れる。
- ・ 終わってしまえばあっという間。
- ・ 4 時間は長すぎて、長くて 3 時間がよい。
- ・ これ以上長いと続かなかった。
- ・ 4 時間は少し疲れました。
- ・ 1 日 4 時間はやや長かった。
- ・ 3 時間ぐらいがよいと思います。

(3) 講師・スタッフについて

- a. よかった:13
- b. まあまあよかった:8
- c. ふつう:1
- d.あまりよくなかった:0

e. 全然よくなかった:0

無回答:1

理由、意見

- ・ 音声、心理学、教材を批判的に検証するなど様々な分野の話が聞けた。
- ・ いろんな個性の方たちで興味深く聞きました。
- ・ いい先生、まとまりのない話しの先生、いろいろな人からいろいろな話が聞けてよかったです。いろいろあっていい。
- ・ 多分野の先生が出席されたように思った。
- ・ 良かった方も、あまり・・・という方もあった。
- ・ 皆さんとても誠実だった。
- ・ 講師の方は上手でした。
- ・ 実際に地域で活躍している支援者を講師に招きその方ノウハウを講義していただいてもよいのでは。
- ・ 専門家の先生が揃っており、よかった。
- ・ 内容のよいものが3講座ありました。

3. 講座を受けて

(1) ここで学んだ日本語学習支援法について

a. とても参考になった:10

b. まあまあ参考になった:10

c. ふつう:2

d. あまり参考にならなかった:0

e. 全然参考になかった:0

無回答:1

理由、意見:

- ・ 対象者がバラエティに富んでいるので色んな切り口からの支援が必要となってきた。依って活用の仕方によって学習支援の効果を上げることができると思っている。
- ・ 毎回従来の教え方を検証してみる機会にできた。自分が授業に変化があった。
- ・ 知識の幅が広がり、深まり、また現場のボランティアの生の声も聞けとても良かったです。
- ・ 全体的に有益であった。ありがとうございました。
- ・ ボランティアを始めて日が浅いので聞くことすることすべてが新しく大いに参考になった。
- ・ 今後参考にしていこうと思う。
- ・ 実際にどの程度、生きたものとして活用できるかな。自分しだいなので。
- ・ 思っていたの異なっていた。もっと具体的な教え方だと思った。

- ・ 具体性のある指導法としての HOW TO がもっとあってもよい。
- ・ 実践的な支援法が参考となる。

(2) 今後あなたが目指す日本語学習支援についての課題が

- a. とても明確になった: 3
- b. まあまあ明確になった: 10
- c. ふつう: 6
- d. あまりわからなかった: 0
- e. 全然分からなかった: 0
- 無回答: 3

理由、意見:

- ・ 学習者のニーズの多様性の引き出しがたくさん出来た。有効的に利用したい。
- ・ 参加者の方たちのボランティア精神に刺激され、今後は一員としてできたらと思います。
- ・ 特に自分を変える要因はない。
- ・ 経験未熟なため教科書を頼りに支援していましたが、まず第一に学習者の必要性に沿った支援を念頭においていくことが大切だと痛感した。
- ・ いかに易しく学習項目を提出するか。
- ・ クラス授業とボランティアとしての支援の違いが明確になった。
- ・ 学習者のニーズに応じて支援をするという基本は自分の考え方と同じであると確信できた。
- ・ 自律学習推進の必要性和ボランティアの役割。
- ・ 方向が明確となった。

(3) とても役に立ったと思われる(記憶に残る)講座、講師を上げてください。

☆ 講座

☆ 講師(敬称略)

- ・ 活動型日本語クラスの実践: 春原憲一郎 (5人)
- ・ ボランティアの話し方: 小林浩明 (4人)
- 青木直子 (2人)
- ・ 教科書を検討し壊す力をつける 尾形文 (1人)
- ・ 久野久枝 (1人)
- 奥田純子 (1人)
- ・ 沢山の情報知識を得ました: それぞれの先生

3. ここで学んだ事を

- a. 現在している日本語学習支援に活かしていきたい: 11
- b. すぐには活かせないが、何らかの参考にしていきたい: 10

- c. わからない:0
- d. さらに研修を受けて、将来、考えたい:1
- e. 参考にならなかったなので、活かしていくつもりはない:0

無回答:2

その他ご意見

- ・ 参加して、講座の中でのメンバーの方たちと色々な話し合いや、会話ができ、世界が広がったような感じがします。長嶋先生をはじめスタッフの方々、講師の先生方に心から感謝したいと思います。
- ・ 参加者と話をする機会があり各自がどんな努力をしているかが分かった。又立派な方が多いのにびっくりした。ボランティアの話すべきこと、日本語教師になるのを希望する人が混ざっている気がする。
- ・ 講座がただ聞くだけでなく時にはワークショップのような活動もあり話を理解することが出来たと思います。ボランティアで日本語を教える基本的な考えが少し分かったような気がします。
- ・ 1.学習のニーズを取り込むことの大切さが分かった。
- ・ 2.今後生活に根ざした日本語の支援がしたい。
- ・ 3.学習者のニーズに対応したテキストを作成しようと思う。
- ・ 講座を受けて感じたことは自分がいかに一方的に押し付け方式でやっていたかが分かった。これからは学習者のニーズを聞き学習者に話してもらうことに努めて生きたいと思います。
- ・ お世話になりました。この講座自体は有益だと思います。すでに活動を長くされている人が沢山おられ新参加者には入りづらい雰囲気を感じた。
- ・ 「外国」人に対する日本語教育事業というタイトルですが中国帰国者を対象にしている教室では「外国人」という呼び方に敏感に反応される方がいます。”日本語が不自由だけど外国人ではない日本人だ”と言う人に対して少し配慮していただけたら、と思うこともあります。
- ・ 日本語教師養成のような講座だったように感じる。具体的な新学習者向けを対象とした学び、実習の必要を感じていた。
- ・ グループ作業が多くやや冗漫な気がした。初めての経験で毎回新鮮でした。ありがとうございました。
- ・ ボランティアは常に新しい情報にアンテナを張り、工夫と改善に絶えざる努力をしていく必要があるそのようなブラッシュアップを薦めるために今回のような講座は非常に役立つ。今後とも定期的開催を望みたい。
- ・ 海外の外国語ボランティアなどの講座

【2】実施主体からの研修内容結果評価

1. 受講生の日本語支援経験やキャリアにかなりばらつきがあり、研修内容をどの部分に焦点を当ててよいかが難しかった。
2. 受講生は、それぞれの立場でワークショップなどではその経験を発揮でき、とても活発有意義なものが生まれた(特に「教科書を壊す力を考える」「教材を作るなど」で。
3. 長期(10回×4時間)の講座で修了生が(7割以上出席)26名出た事は講座内容が充実していた証だと確信している。

【3】実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

1. 近年ますます日本語学習者の多様化とニーズの多様化が進んでいる。そのニーズに応えるような自律学習型の支援システムの構築が必要であり、そのために兵庫県内の地域日本語教室あるいは日本語学習支援者への啓蒙と理解が必要であるので、その趣旨にあった養成講座、研修会を本ネットワークとして、ひょうご日本語ネット(運営委員)と協力しながら今後も行っていく。
2. 兵庫県は淡路島から日本海(但馬)まで広範囲に日本語学習を望んでいる「生活者としての外国人」が散在していて、彼(彼女)たちが望んでも地域日本語教室が遠すぎて通えない。そうした人たちに対して日本語学習ができるようなシステム(派遣システム・WEB 学習システムなど)を構築する必要がある。そのためにまず、現在派遣システムを後述の他事業で校着中である

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

本ネットワークでは平成20～22年度の3年間のかけて兵庫県社会福祉協議会の行政・NPO との協働事業助成「兵庫県内の企業等で働く外国人労働者およびその家族への日本語学習支援システムの構築」を展開しており、とりわけ、遠隔地への日本語学習者派遣システムを構築することを行っている。本事業での自律型学習法などのノウハウ活かしながら、学習支援内容などを検討することができた。

② 研修後の人材活用

今回の受講生の大半は、地域日本語教室で学習支援をしている方たちなので、本養成講座で学んだ事をそれぞれの現場に持ち帰り、それぞれの教室の日本語学習支援内容に反映させる。

修了生のメーリングリストを作り上記の派遣システムの構築ができた段階で派遣者として協力をしてもらう予定である。

(12) 今後の課題

- ① 本講座の修了生のネットワーク作りを行い、修了生たちの域日本語学習支援の実践報告などができるようなメーリングリストあるいはブログを立ち上げる必要がある。
- ② そうした実践を通し、さらなる日本語学習支援内容、養成講座内容を改良していく必要がある。